平新報

發行日 毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
福島縣平町南町七五 發行所 平新報社
廣告料 五號十二字詰一行 一回五十錢 場所指定倍增
一部 定價金十錢 送料五厘

昭和庚午の年頭にあたり所懷を述ぶ

大和田豐吉

畏れ多くも叡聖文武なる今上天皇陛下　の御代しろしめす昭和の年代も最早や指折り數ふれば四年を計算する事となつた。三年經てば三つ兒になると云ひ當歳にして神駿氣鋭なる奔馬は將來千里を走る駿馬になると云ふ。百姓昭明協和萬邦と云ふ。至誠と正義と仁慈とを以て平和の思想の中心とし、此平和の思想を以て世界に推し及ぼし此主義を以て世界萬邦を協和せんと主張するのが、我が帝國建國以來の主張であり二千五百年以來の我が國策であり昭和の今日　今上天皇陛下　の皇謨の根本である。要するに萬世に亘つて平和を鼓吹せんとするのが我が帝國建國以來の主義主張で、之に反對する所謂軍國主義戰闘主義併呑主義を以てせんとするのが我が國策に合致せざる論據である。畏れ多くも、明治天皇陛下　御集を拜觀するに、明治三十七年御製の御作中に

正述心緒
　と題して
よもの海
皆はらからと思ふ世に
など波風の立さわぐらむ

とあり是は察する所横暴にも往時の露西亞帝國が強大なる其國勢を頼みとし、極東地方を眼下に見下して一擧に壓倒せんとする暴虐なる振舞を哀れと思召し詠ませられたる御製を拜察し奉るが、此御製より察するも我が　明治天皇陛下　が中心平和の愛好者であらせらるゝ事は、論より證據の絶好模範である。

然るにも拘はらず明治二十七八年戰役即ち日清戰爭には支那は屬邦の亂を鎮むと稱して兵を朝鮮に出し剰へ我が國の提議を斥けて遂に戰端を開くに至つた。明治三十七八年戰役即ち日露戰爭には曾て我が國は清韓領土の保全と東洋平和の維持とを目的として日英同盟を締結し又屢々露國に忠告し事を平和の間に解決しやうと力めたが、露國は依然其態度を改めないで益々大兵を送くり海陸の防備を固め武力を以て我が國を屈服させやうと企てたから、遂に明治三十七年二月我が國は止むを得ず斷然立つて戰を宣した。其他大正三年七月から歐洲に大動亂が起り獨墺などの同盟國と露佛英などの聯合國と戰端が開かれ後には伊米なども聯合國に加はり前後五年有半に亘つて空前の大亂爭となつた。所が獨國は支那山東省膠州灣にも兵備を修めて東洋の平和が危險になつたので我が國は日英同盟の誼で八月獨國に對して戰を宣し、直に海陸の兵を膠州灣地方に出し一月遂に青島を陷れた斯く述べ來れば我が大日本帝國は如何にも軍國主義にて軍人を以て世界を併呑せんと欲するが如く思はるゝも、是は此萬止むを得ずして立つた萬全の權策にして元より平和の正策では無い憶ひ起す日露戰爭の結果亞米利加大統領ルーズベルト氏の勸告に依り米國ポーツマスに會合して平和條約を締結するや戰勝は寧ろ我が國に有りて戰敗は露國にあるを我が全權大使小村壽太郎氏は其を知らざるもの丶如く恰も屠所の羊の如く條約の内容をば我が國の國民に告げず將外國の新聞紙にも之を發表せずして敗者の態度を以て條約會場に臨めるに引き換へ露國の全權委員ウイッテ氏は堂々として勝者の位置に居り自國の國内は勿論踏み行く行く先の新聞紙をして露國は元より敗者にあらず城下の盟を爲すが如き降伏では無いなどと、横行濶歩して遂にポーツマス條約が締結せられ其結果我が國の全權大使が歸朝せらるゝやこそ〳〵と姿を暗まして歸朝せられ、遂に帝都に大燒打の大騒動となつた。之を今日の即ち本年度英國ロンドンに開會せらるゝ不戰條約の平和會議に臨席せらるゝ若槻全權大使の昨年出發せられ米國に立ち寄り其歡迎の會毎に演說せらるゝ其演說筆記に見て必ずや思半に過ぐる事であらう。是は元より全權大使個人の勢力では無くて背景即ち國家の勢力の偉大なるに基づく所であらうと思ふが夫に附けても我が帝國が斯くの如く隆々として國家隆昌の大勢力を國交の間に發見するを出來得るのは益々以て欣快を感ぜざるを得ない。處で外は以て不戰條約締結の補助艦七割要求が晴雲靉靆して暗曇何れに定まるや否やをも知らざるに内は民政黨政友會の兩黨互に鎬を削りて他黨の惡魔退散に奔走せるに思ひきや他黨自黨もお互に惡魔惡黨跋扈して何れが清きか兩黨の優劣未だ俄に斷ずべきでない。我が大日本帝國は今や此逢着すべからざる危險狀態に突進した。然も既に昭和四年を過ぐる旬有餘日正に第五年に至る當に如何なる覺悟を要するか。

そこで吾人は易學者にあらず又國家の起伏を双肩に擔ふ大宰相にあらず言はば衷心より國家の興隆を企望する一草奔の臣民に過ぎないのであるが、本年即ち庚午の幹枝に因みて本年の注意すべき件々を左に記述する

孔子曰く五十にして而して易を知れば過無きに近しと又曰く易を知らざれば宰相たる能はずと、我が日本の大宰相伊藤博文公は國家の大問題に逢着するや必ず易を高島嘉右衛門氏に問ふた其記錄は高島易斷十冊中にあり敢て詳しくは述べず。

庚は（金の兄）にて金なり金鐵は固き事天下に雙ぶ物なく最少限度に收縮しても其體を失ふ事なく其體が再び熱を受くれば膨脹して擴大する事は物理の定則に照らしても明かなる事である故に昭和五年は恰も金鐵の收縮する如く收縮する年にして而して膨脹のほの見るは其終年の頃か其次年度の辛の年なり。而して又十二支の午の年に相當し居れば此年に生れたる人又此年に逢ひたる人々は次の各項に大に注意すべしと云ふ事である。

第一に忍耐力に乏しい是は此年に生まれたる人の大なる缺點である。人間社會の事は運鈍根の三拍子揃つた人でなければ大成功が出來ぬそこで午の年に生れた人は此大成功の三要素の一つ根と云ふものが無い。夫故たとひ運が好くてそして鈍であるとしても大成功は覺束ないので此忍耐心が無いと云ふ一事は實に大なる缺點と云はなければならぬ併し自然に其樣な運命に生れたんだからといつて自暴自棄になつても尙々成功が出來なくなる。願はくは此弱點を矯正する工夫をして貰ひたい。

第二は心が合ひ易く離れ易い。是は此年に生まれた人の缺點で誰にでも愛想好く始は仲好く交際して居るが直ぐに飽いて了ふ即ち午の年の人は熱し易く冷め易い人である。其のため深く交つて生命を捨て合はうといふ友人は生涯の間に唯の一人も出來ぬ。その癖隨分と人の出入はあるがその出入する人が折り〳〵變つて長つづきせぬのはつまり此熱し易く冷い易い性質があるからである。

第三に陽氣な事が好きであるそのため自然と移り氣になつて心が定まらず二次會三次會と長續きして其行末修まらずと云ふのが此性質の人々である。

第四は外貌を飾ることが好きである夫故流行のものを欲しがつて女子ならばソレ三越の賣出しアレ高島屋の陳列と只流行に後くれない樣にと氣を採む質で殊に人前をつくらうことに氣をつかふ風がある。

第五に勇氣もなければ膽も無い是は午年に生れた大なる缺點である尤も一寸見れば元氣に見えるから定めて事に臨めばシッカリした膽力もあらうと思はれるが其實は五月の鯉の吹き流しでドッシリとした腹がないつまり江戸子式の空威張であるそのためツアといふ場合にはグンナリとなつて何の役にも立たぬ人が多い。此勇氣と膽力とは女子にいらぬ樣なもの丶矢張此世を渡るについて女でも障害物を踏み越えて進んで行くだけの勇氣が必要である萬一の場合に取亂したり周章てたりせぬだけの膽力が必要である。

第六器用である是は此午の年に生れた人の美點であるが昔からも云ふ通り器用は貧乏人だからと云ふので器用な人は概して貧乏で其器用は我が身の寶とはならず却つて人の寶となるやうな事が段々あります。

第七に口と心とに表裏がある外貌を飾る質であるから人前をつくらふために心にも無い事を口に出す事が度々有る是はしかし此の午の年に生れた人の免かれがたい天性である。

第八に自墮落である是も此年に生れた人の一つの缺點で何事にも取締りがない非常に打ちやりばなしである其ため折角向いて來た運氣を取りにがすことがある目を覺して注意するが可い

第九決斷が鈍い、是も自墮落から起る結果で何事に對しても人を恐れさすだけの執着心がないつまりどうでも宜いといふ主義であるからテキパキと決心が出來ぬのであらうと思はる。

第十短氣である、前にもいふ通り自墮落で決斷力が鈍いのだから別に癇癪を起すやうなこともあるまいと思はれるのだが人間といふものは不思議なもので兎角矛盾したところがある即ち此年に生れた人は短氣であるべき筈はないのに妙に癇癪持ちである得手勝手の我儘氣儘の癇癪持ちである。

第十一人の顏色を見る事が上手であるそれゆゑメッタに人を怒らすやうなことはないが又深く人から信用されることもない。

第十二頓智がある外觀を飾り人前をうまく立ち廻るから自然に頓智が走るのであるが是は此年に生れた人の一の特色である。

第十三色情に深い男は頗る女好きで白粉の臭がなければ寢られない人女もドウかするとパッと浮名を世上に流す質である。

其他春夏秋冬の生れや又月日に依つて運命が異なると云ふのだが吾人が運命學者で無いから止める之を要するに本年は所謂政府の緊縮政策即ち縮少すべき年柄にして縮少するや頓て伸張せんとする恭駒の駿々たるが如くであるから大に努力を要する年柄である。

高美堂藥局
平町田町
電話二六八番

平税務署向通り
味噌醤油
山野邊米店
電話（呼出）七三四

X光線科
[illegible]醫院
平南町
電話一一二九番

内科、小兒科、皮尿科
[illegible]醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

液體空氣會社製
（酸素含有量百分中九九、五）
（東京工業試驗所證明）
吸入用酸素、酸素吸入器
体温器 寒暖計
關内藥局
電話四〇番

平町田町
高久病院
電話五一三番

内科・外科・診療一般
片岡醫院
湯本町驛前通

平町田町大通り
ライト寫眞館
高田二果
電話八四七番

植田町
森合齒科醫院
本町
森合秀男

長井博士の推奬せる萬病に靈効を有す
別府鑛水　定價大瓶壹圓

別府溫泉より生産せる不思議なる塗布藥
溫泉エキス（一名アンマイラズ）　小瓶五十錢　大瓶一圓也

世界的評判になれる婦人挿入藥
美神丸　定價　一週分四〇　二週分八〇　五週分一、八〇　十週分三、五〇
一日藥價僅かに五錢の自宅療法の妙藥
健康素として男女強壯藥

キナサフラン酒　小瓶一、二〇　大瓶二、〇〇　徳用五、〇〇
旺盛なる賣行は優秀なる効果を立證す

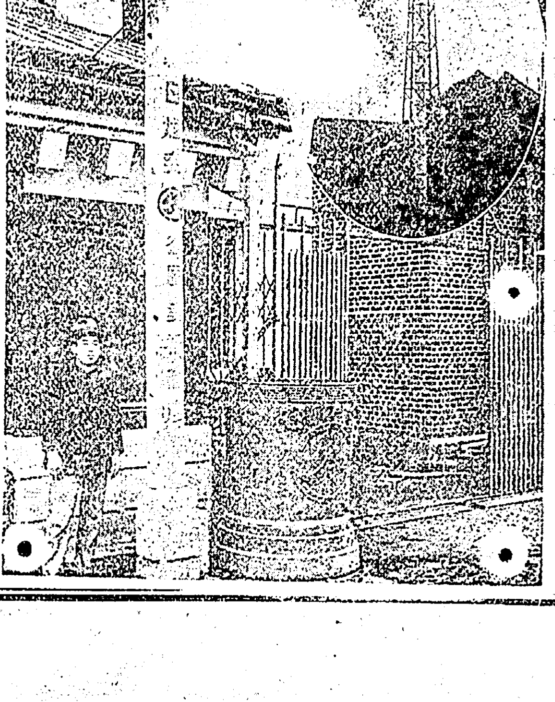
仁丹體温計
フェバ體温計
特約店

山野邊藥局
平町五丁目角
藥劑士 山野邊東次郎

日本石油株式會社特約店
油問屋
關内油店
平町二丁目
關内正一
電話長十六番
支店 郡山市驛前 電話三二八番
支店油槽所 茨城縣多賀郡關本驛前 電話（平潟）三七番

酒銘
[illegible]
總發賣元
永山酒造店
平町四丁目平驛通り
電話二〇七番

磐城セメント特約販賣店
石綿セメント製
朝日煙突
耐水。耐火。美麗。廉價
サビナイ。ヤケナイ。クサラナイ



和洋銅鐵金物
久
釜屋商店
平町五丁目
電話九番・二三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
◈良品廉賣に勝る商略なし確實敏捷は久の生命なり

舊年末と既成
防寒洋服
外套

おかやま洋服店
（電話二〇三）

謹賀新年
水戸市上市向井町
吉田清左衛門

謹賀新年
北海道深川高等女學校長
平賀仙三郎

膽寫版附屬品一式
スミス式・キング式
清光堂
清水屋書店
平町二丁目
電話百卅二番

磐城セメント[illegible]店
西村屋藥舖
平二丁目 長電話參番

近來稀にめつらしき出席員ありし
磐中同窓新年會合
うちにも奮つた諸橋會長の挨拶こ記念撮影

磐城中學校同窓會新年宴は去る三日午後六時より平町住吉屋本店にて開催さる先づ會長諸橋守次氏の挨拶に次いで唐土校長の所感あり、記念撮影をなし近來稀に見るめつらしき出席員あり盛會であつた。諸橋會長の挨拶大要

諸君昭和第五の新春を迎へまして吾々磐中同窓會員がかくも多數一堂に會し和氣靄々なる中に新年祝賀の宴を催しまする事は誠に御同慶に堪へません。是れみな聖代の餘徳で御座いまして上は皇祚の無窮と皇國の隆盛に對し謹で感謝と慶祝の意を表しまするど同時に吾等が母校磐城中學校の前途洋々たる發展を望み併而校友各位が邦家の爲め大いに自重して御健闘あらん事を切望して止みません。顧みますれば昭和の四年は公私共に誠に多事多難でありまして經濟と云はず思想と云はずありとあらゆる事象は萎微沈滯を極め實に言語に絶するものがあつたのでありますが今や更新の氣天下にみなぎる年頭に當り勇躍一番此の未曾有の國難打開に向つて一路精進せねばならんと思ふのであります。故に此の際須からく爽烈なる氣分を持し以て一年の大計に善處すべく本夕は各自胸襟を開いて十二分の歡興を盡くされん事を御願ひ致します。終に校長及諸先生を初め會員各位の御健康と御多幸を祈ります。

■寫眞は一堂に會せる磐中同窓會友と現會長諸橋守次氏の近影

出席員

山野邊庄吉　山田　盤麿
諸橋　守次　佐藤　武之
石川友次郎　酒井　清
青天目增藏　關內　正一
蛭田　利光　柴田　德二
酒井國三郎　新妻幸之助
唐土　齊治　廣田　德行
山崎　宣吉　山崎　清三
野崎喜八郎　阿部　傳六
山野邊久利　鈴木　信雄
松井　深　遠藤　平太
山田　政好　松本　榮一
岡田朝五郎　根本　毅一
堀　一郎　渡邊　壽重
鈴木龜之助　鈴木　茂作
佐藤　作平　本多　乙彥
小野　保　草野亥子治
鈴木　茂雄　高木　武雄
石川　忠治　木村　守江
比佐　昌平　鈴木　佐市
丸山喜一郎　加藤　丈夫
合津　重世　渡邊　貞之
新妻　恭孝　吉田　正雄
草野　五郎

因みに齊藤晃氏より祝電があつた。

磐城に於ける女子教育界の先驅 酒井ミヨ子女史の
……紀念銅像除幕は 本春櫻花の節に

磐城に於ける私立女學校教育界の最古歴史と校格を有す平陽女學校長酒井ミヨ子女史の紀念銅像は本郡出身の天才鑄刻家本多朝忠氏に依つて目下製作中にて基礎は既に工了してをると聞くが本校今日までに至りしは實に慘風悲雨の結果であると云ふ。是れ全べて女史の尊き女性の半生を之に捧げた必然なる次第にて其の苦闘の跡や涙潜々たるものであらう故に女史の功績の一端を永遠に顯彰する爲校友と友志醵金にて今春銅像の建築議成り昨年末除幕式擧行の筈であつたが本春四月櫻花萬朶の好季を待つて斯の實現を期すと。夫れ酒井ミヨ子先生の御老體一層健康ならむことを筆者は祈つて玆に筆を措く。

孝道の賜はり
草野マス子さんの良縁
諸根氏夫妻の媒酌にて

平町白銀町草野マス子(三三)さんは、平素孝行の賜物として良縁を得即ち本月十四日、平驛前新藤屋旅館に於て諸根樟一氏夫妻の媒酌により、東京京文社員山本悌助(三二)氏と盛大なる結婚式を擧げた。

郷土を把持する苦悶者
中央學界に進出する
勿來 諸根 樟一氏の
出發は本月廿五日午後二時

本郡川部村出身にして平町居住の諸根勿來氏は、其の信念とする鄕土思想主義運動の爲には、大正初頃以來中央及び鄕土間に於て熱烈に唱導し來り、以來十年餘終びに其の犧牲として先祖の家と土地をも賣却して之に代へたと云ふ 華々しき殉鄕職者の一人たる氏は愈々思ひ出の平町を引き揚げ來る廿五日東京に移轉し毎月十五日間は、依然本縣及び鄕土磐城の文献復興に從事し、此の間を平町に出張し氏の令弟、平町田町三番地諸根正二氏方（電話八〇七番）に滯在すと。

磐城共濟病院の
中西林藏博士
一見大學に於ける
青年教授の風丰

水戶、仙臺間に於ける病院中最も組織と設備と醫士の完全せるは、吾が磐城平の共濟病院たることは地方一般民の齊しく知る所である就中當病院の醫士中其の醫科學以外に趣味の天有するに富むは　中西林藏博士とする。氏は繪畵に於て既に入選の域に達し文學は更なり殊に鄕士趣味の研究に就いては東北に於ける權威の一人である。人格高尚にして醫者又は學者ぶらす一見大學の親しみある青年教授の觀がある。其處に氏の現代にありふれた似而非醫學博士或は幇間醫者等と異にする神聖なるインテリゲンチャのテムプルベントを有つ士であるのを吾人は甚だ喜び且つ氏の前途の大成を祈るものである。

結氷の鮫川河畔より
勿來生

鮫川の岸べに建てるわが庵の絕えて人なく冬は來りぬ
夜もすがら庵りまぢかに河音をきゝつゝ書きぬ地志の原稿
夢うつゝ村の鍛冶屋の槌きゝて目醒め起きけり霜白き朝

友情密なる
磐中二八會
新年宴

磐城中學校十六回卒業生を以つてなる二八會は新年懇親會を去る元日午後六時より平町越乃家にて開催舊師にして現に母校に在職中なる山崎宣吉、遠藤平太の兩先生の臨席を乞ふて左の會友出席、京城院南在住の石井市重郎氏よりの祝電等あり舊情を溫め頗る意義深きものであつた。

高野　岩雄　岡田朝五郎
小泉　謙吉　諸橋元三郎
關內　正一　比佐　榮一
小泉　恭平　中根敬太郎
大越　新　山野邊久利
大野　元　山野邊庄吉

舊師杉山氏に對し
高坂會が
床しき
謝恩會

內郷小學校出身たる關內正一氏中根敬太郎氏等同窓生よりなる高坂會では時の恩師現玉川小學校長杉山勇馬氏に對し謝恩會を平町谷口樓にて十五日催したと、時人心やゝもすれば輕薄たらんとする折柄床しき子弟情風である。

仕事の悲しみ
良子

なつかしき夫の著作の傍にたち茶を出しかれてしばしためらふ
手傳の近古以前の古文書を寫しまどえて萬年筆を置きけり

年賀ハガキより（一）

神代より磯のいは面のきよらかに波にあらはるいはき海岸

庚午元旦

佐々木顯
福島縣平町紺屋町

白砂は觸るゝすがしさ磯行くとたまたま波の足を洗ふも
ひき潮に磯遊びする子等のむれ足すべらして打ちまろぶあり
山國にそだちし少女海にきてよせくる波におびゆるらしも

猪瀨大佐待命

磐中第一回卒業生たる海軍大佐猪瀨乙彥氏は去る十日附待命仰せ付けられた

關西旅行記（九）
西山孝賴

廿二 上越館

上越館は市の中央に位してゐる善光寺に行くには大變便利な場所である家は洋館三階建なり私等は二階の一室におちつく。やがて女中さんはお茶をもつてくるさてお菓子をたべようと思ひ菓子入をあけて見ると中はからだ之には私も驚いた。いつたいこゝの女中さんは何か考いてゐるのか仕方ないから岩村の人士の家で造つた羊羹をいただいた私達憤慨せずにはゐられない。電話をもつて女中さんを呼ぶそして右の事情を話した所女中さん子供がやつたのでせうと子供にかつける私等に散々云はれたので女中さんもあやまりしてゐた、あとで可愛そうに思つた。やがて二人でお湯へ入り夕飯をなす餘りさかなは上等ではなかつた、之も山國であるから仕方がない夕飯をなしてから町を見物に行く長野市の商店の商飾りは立派であるそして道路も清潔である。人道車道に別れておる人道の方はコンクリートである、そして樹木が兩側に植ゑてあるなか〱立派な町である。岩村の人大道商人からおびを買ふ私はおみやげを買つた店からである。やがて大道から橫道へ入ると常設館があつた今大岡政談をやつてゐた貧弱なる常設館である有聲座よりもわるい、やがて旅館につきすぐ床につく。明くれば天氣晴朗なり今日は善光寺をおまへりす。

音信交換

過去と現在と仁井田浦
（浪花節）

平新報社宛

大浦村　芳秀院居士

宇宙の森羅萬象常なき陰陽分子の表現態なる自然界の中にも名高き帝都芝增上寺祐天大僧正出現の磐城仁井田浦にて時は大正十二年八月二十八日午前八時ぼつき貝捲き作業中不思議や突然眼前に顯はれ出でたるは我れ等の兩手を以て抱へ餘る首の大龜咽は赤く描きし樣と變りなく浮き嶋の如くにて眼光するどく威容もの凄くして今や舟諸共沈めらるゝかの怖しき此の容姿の確認者は四ッ倉濱横田長太郎外船中四人なり時恰も九月一日關東に大震大火の起る前兆なる事と悟り之が以心傳の八席に近き大龜の記事を殘して尙ほ餘りある感を深ふし泥んや浦島に於てをやである『姫と化して浦島を迎ふ。仁井田浦の龜萬年の齡壽を保ちて大正の地變を知らす』嗚呼神龜よ崇脩なる靈驗を現はし神變の嚴かなる事神誠にして實し得さる前兆奇顯の浪界に於て龜は萬年の故きを訪ね眞心に新しき確信を深く刻まれたる實現の龜鑑なり。

廣島縣吉田町にて　山野邊義政

一月十日

過去の經緯よりふつつり去つて今中國の山部吉田町に來り居候 玆吉田町は毛利元就の居城跡むべなる哉人は地味にして山色消し義人ありと雖も浮薄なし昨夜來の雪に降り込められスッカリ里心切なる旅の客と相成申候 麗しき此人情より突然思ひ出し社局營業心裡に目醒め申候

紐育にて　齋藤　飾

十二月一日

出發の際の御厚意感謝の至りに不堪玆に厚く御禮申上候 其後無事只今紐育に滯在罷在候 祈御健康候

話耳

矢野高等の後に赴任した平署警部補の佐久間正美君は諸根氏の從弟とかで赴任早々諸根氏兄弟を訪ね大いに肉親の情を溫めたとは職業を超越した所トテモ筆者は羨ましく思つた。

柴田梅溪

髮結ふた新妻
髙材海靜か
放射線二見神秘な海色

謹賀新年

平町田町
猪狩菊三郎
電話四七三番

謹賀新年

平町紺屋町土橋通
原齒科醫院
原　精一
電話三一番

動力使用最新
獨逸式製材機取付
製板製材並に諸建築用材一式請負
◇迅速！叮嚀！安價

平町仲町
增尾甚市郎
電話四六九番

◈舊歳末福引大賣出し
一月廿一日より二十八日迄八日間
御買上金貳圓毎に福引券一本呈上
特等　上等三重桐簞笥　一棹
一等　丸帶　一本
二等　上等毛布　一組
以下空籤なし

◈福助會社製絹天足袋 大提供
一月二十三日より　貳足　九拾錢
餘興福引
一等　當籤　福助博多人形
二等以下　空籤なし

◈本年最初の大特價品 大豐富
◇歲末年始の御贈答には……優美なる亀の商品券を
御婚禮の御支度は特に御勉め致します

平町三丁目
亀 中野呉服店
電話六十七番

三井の店舖改築披露
福引大賣出し
舊十二月二十日より五日間
金三圓御買上毎に福引券呈上
特等　江戶褄　壹枚
一等　丸帶　壹本
二等　本紡績　壹反
三等　蒲團皮　壹反
四等　風呂敷　壹枚
五等　名入御手富貴　壹本
御婚禮御仕度は……今
金解禁相場の大破格品を豐富に取揃へ廉價提供可仕是非御用命の程を
店舖改築披露として金參圓御買上毎に福引券呈上致します

平町三丁目
三井呉服店

內科　小兒科（院長每日診療）
院長　醫學博士　難波　睦
內科部長　醫學博士　中西林藏
外科專問　內臟外科　整形外科　レントゲン科
外科部長　醫學士　氏家憲介
每日手術　醫學博士　桂　重次
產婦人科　女子泌尿科
產婦人科部長　醫學博士　松枝　茂
耳鼻咽喉科
部長　醫學士　井上貞次郎
每日手術　醫學博士　渡邊貞助
X光線科
主任　醫學博士、難波　睦
技師　工藤慶造
◈藥局
衞生試驗所　醫學博士　中西林造
衞生試驗所技師　小熊英夫
藥局長　吉本孝平
本院法律事務囑託　法學士　岡　蕃
本院　主管　賀澤忠治
◈◈◈
一衞生試驗所
一病氣相談所
一救療所
……（共濟病院內）……
◎救療を申込まるゝ方は當相談所へ御話し下さい

磐城共濟病院
平町　電話六四一番